



# 交通事情から垣間見る ベトナムとラオスの国民性の違い

さきがわ  
崎川

まさし  
勝志

●エファジャパン・ベトナム駐在員（海外事業担当）

筆者は、2004年に自治労が設立した国際協力団体（NGO）エファジャパンの職員として、ベトナムに駐在しながらラオス事業も担当し、ラオスに頻繁に出張している。ベトナムとラオスは同じ社会主義国の隣国同士で、ベトナム共産党とラオス人民革命党は同じインドシナ共産党に起源があり、それぞれの前身であるベトナム労働党とラオス人民党はベトナム独立戦争時、協力してアメリカと戦った歴史がある。そのためこの2か国は「特別な関係」にあり、党・政府高官レベルでの交流も活発である。

しかし、政府間レベルの密接度とは対照的に、国民性は異なる。ベトナム人とラオス人が車やバイクの運転をしているのを見ると、「助手席に座りドライバーの運転を30分見れば、その人の性格が全部分かる」と警察で交通安全業務を担当していた叔父が言っていたのをよく思い出す。

まずは、ベトナム。ベトナムに実際に来られたことのある人や、あるいはテレビなどの映像で、ベトナム人がバイク1台に数人で乗り、クラクションを鳴らしながら運転しているのを見たことがある人も少なくないかもしれない。相手が道を譲るのを待っているのは先に進めず我先へと進む。バイクの荷台には鶏や豚からテレビ、冷蔵庫まで積んで、バイクで運べる物は何でも運ぶ。長距離バスには決められた定員がなく、バスの中が通路まで乗客で一杯になったら定員である。交通事故も

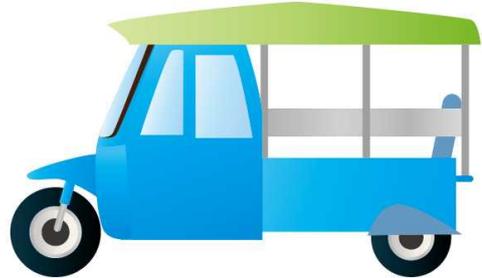
少なからず起こり、バイクで衝突し合った人同士が口論をしている場面も時々見かける。

一方、ラオス。ラオスでは車やバイクに乗っている人がクラクションを鳴らすのを耳にすることは少ない。首都ビエンチャン都中心部でのラッシュアワー時でもあまりクラクションの音は聞かない。道を譲ってくれることも珍しくない。バスターミナルで長距離バスに乗る場合は、座席番号が記載されているチケットを購入し、座席が埋まると定員となる。

これらの交通事情から2つの国の一般的な国民性の違いを比べてみると…

ベトナム人は自己主張が強く、路上で殴り合いの喧嘩をしているのを見かけることもある。ただし、喧嘩をした翌日には、後腐れなく何事もなかったように元の鞘に戻り易い。郵便局、銀行、スーパーのレジで並んでいても、油断すると前に割り込まれる（だからと言って苦情をいう人もほとんどいない）。ベトナム人と話をしても、プライベートのことまで入り込んで聞いてくる。その代わり、面倒見は良く、義理人情に厚い。また、「ベトナム人ならなんとかするだろう」と思えるくらい、何か物理的な問題に直面しても、たちどころに解決してしまうところがある。

ラオス人は、温厚な性格の人が多く、個人的に付き合いやすい。他人と衝突することを好まず、



---

「No」とはっきり言わない。ベトナム人ほど、見知らぬ外国人やその他の事柄に対して、好奇心が旺盛な訳でもない。郵便局、銀行、スーパーのレジで、黙って立っていても自然と順番が回ってくる。ラオスを訪れた年配の日本人の中にはゆったりとした雰囲気や人々の性格が好きになり、リピーターとしてラオスを再訪問する人も少くない。

NGO職員として両国を支援していても、ベトナムの政府機関は支援計画の立案・実施で自分たちが主導権を握りたがるのに対し、ラオスの政府機関は「支援をしてくれるのならドナーの意向に沿いますよ」とこちらの意向を割とすんなりと受け入れる傾向がある。ベトナムの政府機関や弊団体のベトナム人スタッフには硬軟をおり混ぜた対応をするようにしているが、ラオスではそれほど意識しない。ベトナム人には自身の損得勘定を重要視しすぎるため接しにくい人がいる反面、とても優秀で誠実な人間的に尊敬できる人も多い。個人的な感想ではあるが、もしベトナム側と意見が一致し後者のような人と組んでプロジェクトが実施出来れば、大きな成果を上げることが可能だと思う。一方、ラオスの人たちは押し並べて付き合いやすい人柄だが、ベトナムにいるようなとても優秀で人間的に尊敬できる人は、人口比の割合を考慮にいれても、ベトナムほど見当たらない気がする。

フランス統治下時代、インドシナ三国の労働意欲を比較して、「稲を植えるのがベトナム人、稲が育つのを眺めるのがカンボジア人、稲が育つ音を聞いているのがラオス人」とフランス人が例えたことは有名である。また、フランス人が言う世界で最も資本主義経済にマッチしたマインドの持ち主は中国人で、ベトナムはその中国の影響を歴史的・社会的に強く受けており、政治は社会主義体制だが、商売気質な性格は中国人に似ているところがある。一方、ラオスは歴史的にタイの影響を強く受けており、文化的にも類似点は少くない。特に、ラオス人の穏やかな気質はあまりビジネスに向いていないのかもしれない。食事や買い物をした後の支払いで請求金額に間違いがある場合、ベトナムでは実際の支払額より多く請求してくるケースがほとんどだが、ラオスでは実際より多く請求してくるケースと少なく請求してくるケースは半々くらいである。

これら2か国の国民性を比較してみると、国の体制よりも、結局、歴史・文化のほうが国民性の形成に強い影響を及ぼしているのかもしれない。ただ、ベトナムとラオスに見られる共通点として、国民たちはそれぞれの既存の体制の枠組みの中で、自分なりに自身や家族の幸せを追求していることを感じる。